

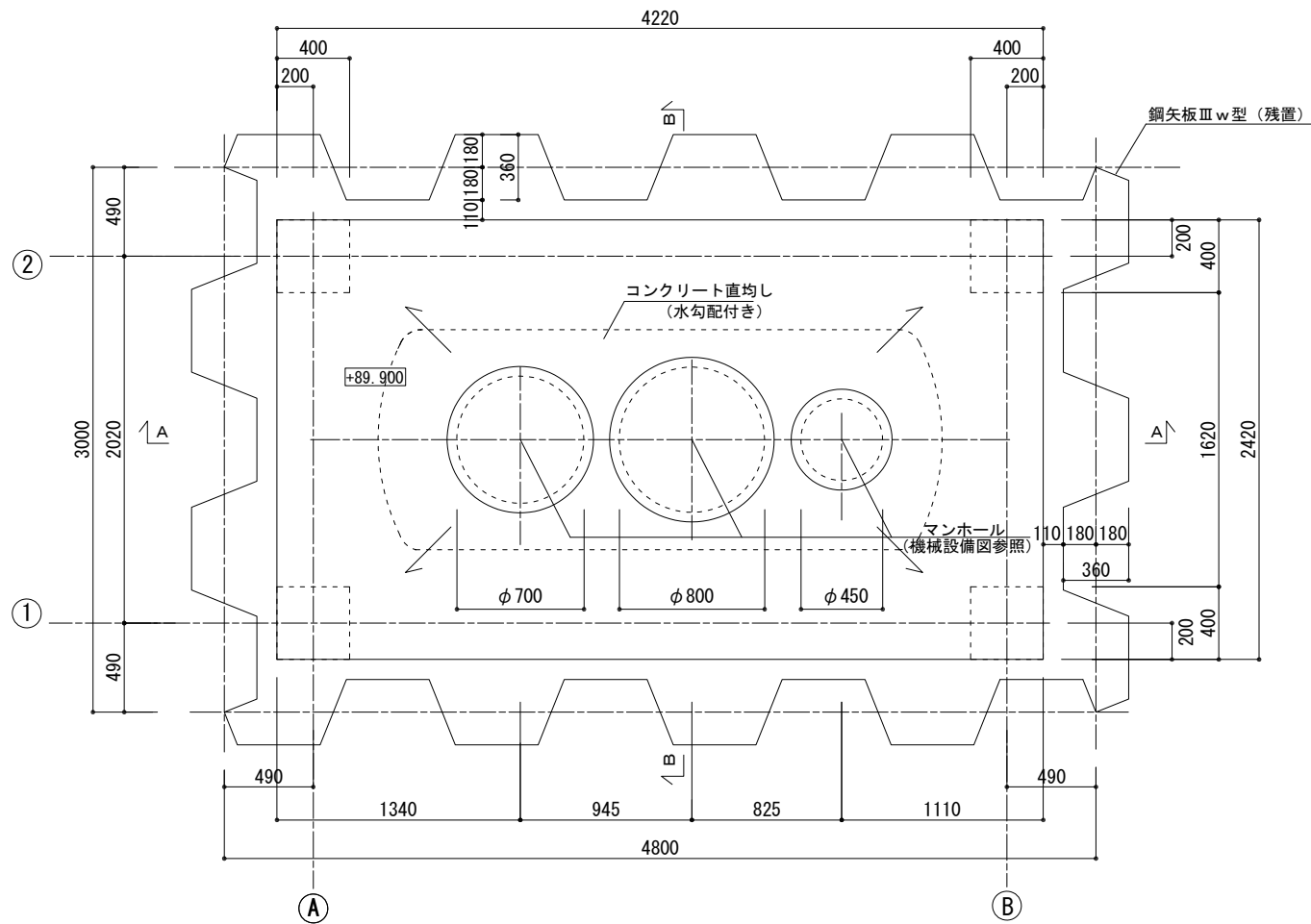
5魚建第1号 四日町排水ポンプ場機械設備工事

目 次

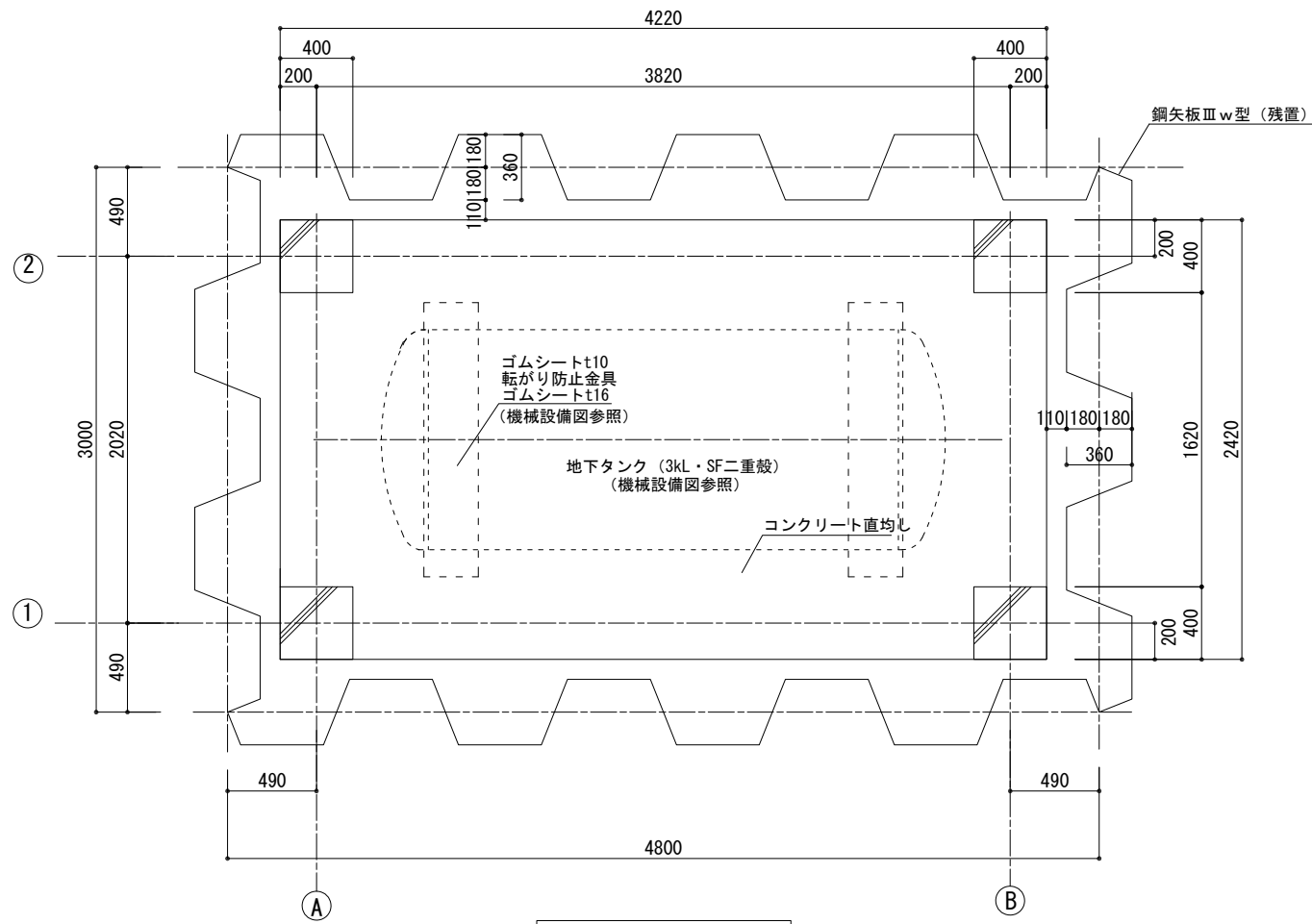
[illegible]

新潟県魚沼市産業経済部建設課 四日町排水ポンプ場機械設備工事設計図 令和 5年 (全 2枚)		Ⅱ 特記仕様		④ 地業工事		7 鉄骨工事	
仕 様 書		Ⅰ 共通仕様		2 既製コンクリート杭地業		1 鉄骨製作工場	
1. 本共通仕様及び特記仕様に記載されてない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 令和4年版 」(以下「標仕」という。)による。		1. 項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。 2. 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3. 特記事項に記載の()内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。 なお、(参考・)は標仕の「各部配筋 参考図」を表す。 4. 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また()内は製品名を示す。		2 既製コンクリート杭地業		1 鉄骨製作工場	
2. 標仕に用いられている用語を次のとおり読み替える。 (1) 「契約書」を魚沼市財務規則別記(建設工事請負基準約款) (以下「約款」という。)に読み替える。 (2) 「監督職員」を「監督員」に読み替える。 (3) 「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。		① 各章共通事項		3 場所打ちコンクリート杭地業		2 施工管理技術者	
3. 次の各号に該当する標仕の項目について、標仕の規定を別表に置き換えて適用する。 (1) 1章 1.1.2用語の定義の(ア)、(セ)及び(ナ) (2) " 1.4.2材料の品質の(1)及び(2) (3) " 1.4.4材料の検査等の(1) (4) " 1.6.1工事検査の(2)及び(3)		② 概成工期 ③ 品質計画等		④ 砂利地業 5 床下防湿層		3 鋼材	
4. 次に掲げる標仕の規定は、適用しない。 1章 1.1.2 用語の定義の(ニ) " 1.6.2 技術検査		4 電気保安技術者 ⑤ 発生材の処理等 ⑥ 特別な材料の工法 ⑦ 技能士		⑤ 鉄筋工事		4 高力ボルト	
別 表（建築工事）		8 見本施工 9 化学物質の濃度測定 ⑩ 完成図等		⑥ コンクリート杭地業		5 工作図	
号	項 目	置 き 換 え 後 の 標 仕 の 規 定		⑦ 型枠材料		6 開先形状	
1章	一般共通事項			⑧ 帯筋		7 スカラップ	
(1)	1.1.2 用語の定義	(ア)「監督員」とは、約款第10条に基づき受注者に通知された者という。 (セ)「書面」とは発行年月日が記載され、署名又は押印された文書、及び新潟県CALSシステム上で電子決裁処理された電磁的記録をいう。 (ナ)「工事検査」とは、約款に基づく次の各事項の確認をするために発注者又は検査職員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査(ただし、②に係る検査を除く。)を含む。 ①工事の完成(約款第32条) ②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条) ③部分引渡しの指定部分に係る工事の完成(約款第39条) ④契約の解除時における出来形部分(約款第48条) ⑤必要があると認めたときの臨時検査(約款第50条)		⑨ 梁貫通孔の補強形式		8 溶接部の試験	
(2)	1.4.2 材料の品質等	(1) 工事に使用する材料は「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿（契約時の最新版）」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とするほか、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、新品とする。ただし、設計図書に定めのある場合は、この限りでない。 なお、「新品」とは、品質及び性能が製造所から出荷された状態であるものを指し、製造者による使用期限等の定めがある場合を除き、製造後一定期間内であることを条件とするものではない。 (2) 使用する材料が、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を、監督員に提出する。 ただし、設計図書に定めるJIS又はJASの材料で、JIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合(次の(7)から(9)のいずれかに該当する材料を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けたとみなすことができる。)は、この限りでない。 (7) 建築基準法その他の認定品で、マーク等の確認ができる材料 (4) 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿に記載されている材料又は製造所の製品（特記で標仕の規定に基づく品質及び性能以外を規定した場合を除く。） (9) 特記により指定された材料又は製造者の製品		⑩ 圧接完了後の抜取試験		9 デッキプレート の溶接	
(3)	1.4.4 材料の検査等	(1) 工事現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。 ただし、次の(7)若しくは(4)に該当する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 (7) 工事完成検査時又は工事写真で、JIS若しくはJASのマークを確認できる場合 (4) 建築基準法その他の認定品と指定された材料で、工事完成検査時又は、工事写真で品質、性能を証明するマーク等を確認できる場合		⑪ 骨材の品質		10 耐火被覆	
(4)	1.6.1 工事検査	(2) 約款に基づく部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (3) (1)の通知又は(2)の請求に基づく検査並びに約款第48条及び第50条に規定する検査は、発注者から通知された検査日に受ける。		⑫ 寒中コンクリート		11 アンカーボルトの 保持及び埋込み工法	
		仮設工事		⑬ コンクリート工事		12 柱底均しモルタル の錆止め塗料塗り	
		土工		⑭ 地業工事		13 錆止め塗料塗り	
		地業工事		⑮ 地業工事		14 錆止め塗料塗り	
		1 監督員事務所等		⑯ 地業工事		15 錆止め塗料塗り	
		2 工事用水		⑰ 地業工事		16 錆止め塗料塗り	
		3 工事用電力		⑱ 地業工事		17 錆止め塗料塗り	
		4 仮設建物等		⑲ 地業工事		18 錆止め塗料塗り	
		5 足場		⑳ 地業工事		19 錆止め塗料塗り	
		埋戻し及び盛土		㉑ 地業工事		20 錆止め塗料塗り	
		2 建設発生土の処理		㉒ 地業工事		21 錆止め塗料塗り	
		試験		㉓ 地業工事		22 錆止め塗料塗り	
		既製コンクリート杭地業		㉔ 地業工事		23 錆止め塗料塗り	
				㉕ 地業工事		24 錆止め塗料塗り	
				㉖ 地業工事		25 錆止め塗料塗り	
				㉗ 地業工事		26 錆止め塗料塗り	
				㉘ 地業工事		27 錆止め塗料塗り	
				㉙ 地業工事		28 錆止め塗料塗り	
				㉚ 地業工事		29 錆止め塗料塗り	
				㉛ 地業工事		30 錆止め塗料塗り	
				㉜ 地業工事		31 錆止め塗料塗り	
				㉝ 地業工事		32 錆止め塗料塗り	
				㉞ 地業工事		33 錆止め塗料塗り	
				㉟ 地業工事		34 錆止め塗料塗り	
				㊱ 地業工事		35 錆止め塗料塗り	
				㊲ 地業工事		36 錆止め塗料塗り	
				㊳ 地業工事		37 錆止め塗料塗り	
				㊴ 地業工事		38 錆止め塗料塗り	
				㊵ 地業工事		39 錆止め塗料塗り	
				㊶ 地業工事		40 錆止め塗料塗り	
				㊷ 地業工事		41 錆止め塗料塗り	
				㊸ 地業工事		42 錆止め塗料塗り	
				㊹ 地業工事		43 錆止め塗料塗り	
				㊺ 地業工事		44 錆止め塗料塗り	
				㊻ 地業工事		45 錆止め塗料塗り	
				㊼ 地業工事		46 錆止め塗料塗り	
				㊽ 地業工事		47 錆止め塗料塗り	
				㊾ 地業工事		48 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		49 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		50 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		51 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		52 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		53 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		54 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		55 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		56 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		57 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		58 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		59 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		60 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		61 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		62 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		63 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		64 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		65 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		66 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		67 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		68 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		69 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		70 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		71 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		72 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		73 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		74 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		75 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		76 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		77 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		78 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		79 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		80 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		81 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		82 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		83 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		84 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		85 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		86 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		87 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		88 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		89 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		90 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		91 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		92 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		93 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		94 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		95 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		96 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		97 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		98 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		99 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		100 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		101 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		102 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		103 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		104 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		105 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		106 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		107 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		108 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		109 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		110 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		111 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		112 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		113 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		114 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		115 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		116 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		117 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		118 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		119 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		120 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		121 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		122 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		123 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		124 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		125 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		126 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		127 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		128 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		129 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		130 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		131 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		132 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		133 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		134 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		135 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		136 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		137 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		138 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		139 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		140 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		141 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		142 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		143 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		144 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		145 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		146 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		147 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		148 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		149 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		150 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		151 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		152 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		153 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		154 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		155 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		156 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		157 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		158 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		159 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		160 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		161 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		162 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		163 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		164 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		165 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		166 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		167 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		168 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		169 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		170 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		171 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		172 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		173 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		174 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		175 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		176 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		177 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		178 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		179 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		180 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		181 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		182 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		183 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		184 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		185 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		186 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		187 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		188 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		189 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		190 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		191 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		192 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		193 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		194 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		195 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		196 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		197 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		198 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		199 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		200 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		201 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		202 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		203 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		204 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		205 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		206 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		207 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		208 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		209 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		210 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		211 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		212 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		213 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		214 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		215 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		216 錆止め塗料塗り	
				㊿ 地業工事		217 錆止め塗料塗り	

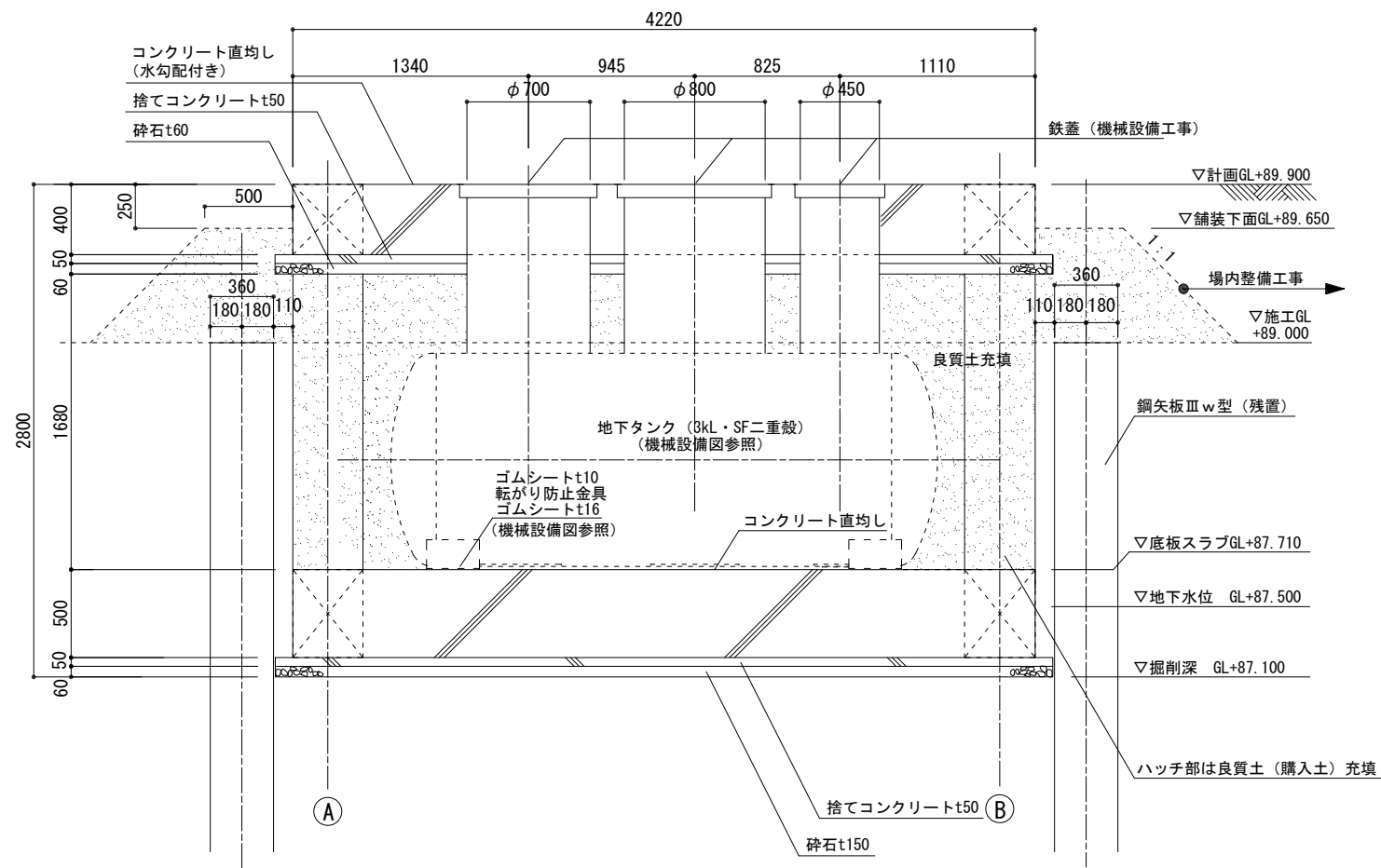
[illegible]



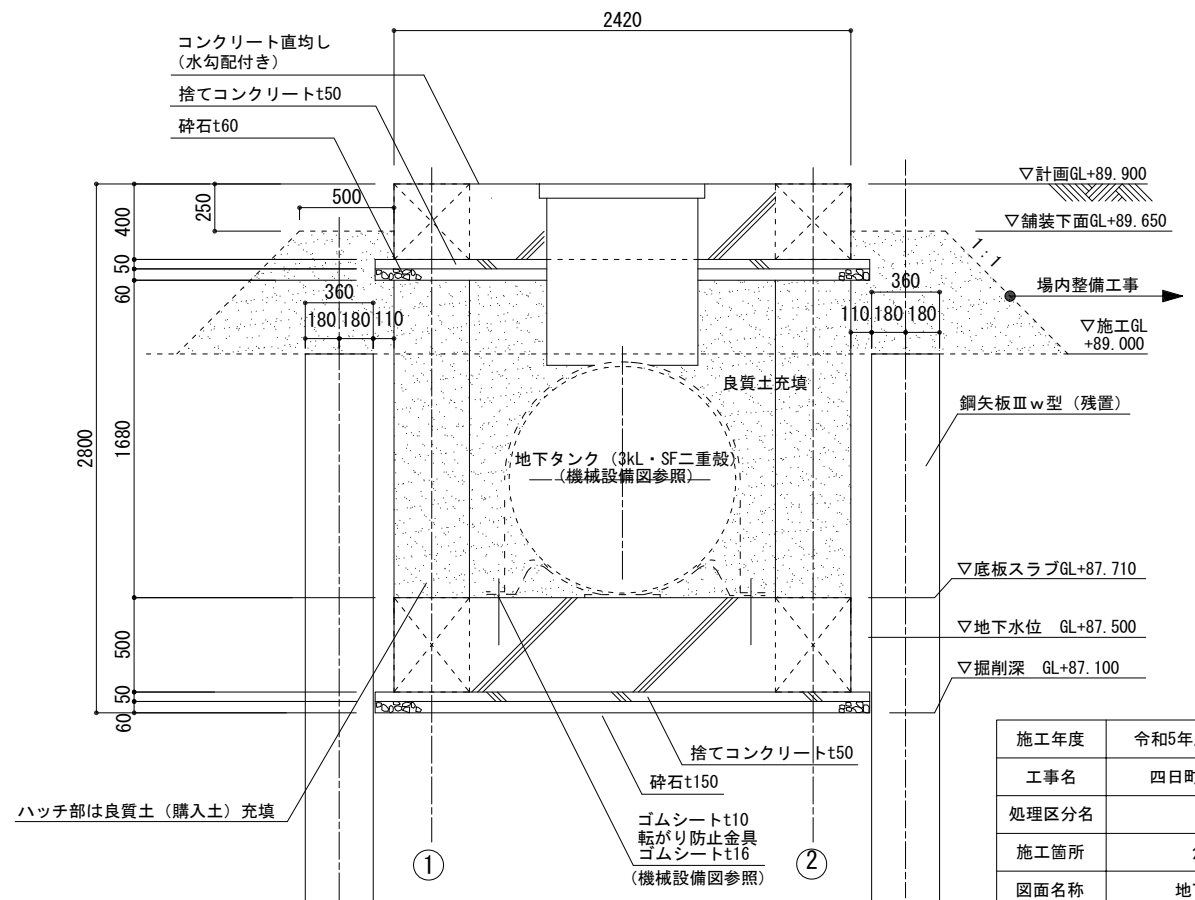
上部平面図 1/20



下部平面図 1/20



A-A断面図 1/20



B-B断面図 1/20

施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	地下タンク平面図・断面図		
縮尺	1/20	図面番号	D-3
製	保	審	調
長	長	査	査
魚沼市産業経済部建設課			

構造細目共通図(建築構造物)					
＜ 令和4年版 ＞					
※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。 使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。 枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。					
1 特記事項					
1.1 適用範囲					
(1)本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。 (2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。					
1)建築工事特記仕様書 2)建築改修工事特記仕様書 3)建築工事一般仕様書 4)公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4 年版) 5)公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4 年版)	(別紙による。) (別紙による。) (最 新 版) (令和 4 年版)				
(3)項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。○印と⊗ 印のある場合は、共に適用する。					
1.2 鉄筋の仕様					
鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。					
1. 1表 鉄筋の種類及び継手					
	種 別	径			
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下			
	SD 345	※D19以上			
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外			
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋			
	機械式継手	※図示による。			
1.3 コンクリートの仕様					
コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。					
1. 2表 コンクリートの仕様					
分 類		コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	セメントの種類
鉄筋 コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下 基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート		※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント
注1：無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。					
1.4 砕石及び捨てコンクリート					
砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。					
1. 3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様					
種 別		厚さ(mm)			
砂利または砕石		※ 60			
捨てコンクリート		※ 50			

2 共通事項								
2. 1 記号及び符号								
設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。								
2. 1表 鉄筋の断面表示								
径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕
2. 2表 一般凡例								
記 号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項						
F※	フーチング断面種別	※ 番号						
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号						
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----						
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く						
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)						
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない						
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない						
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)						
▨	打ち増し範囲							
▩	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの十、一に 応じた凡例により表示						
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)						
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁						
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱						
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱						
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁						
組立筋	組立て筋	床版、底版						
2. 2 一般注意事項								
(1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。 変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。								

3 鉄筋の折曲げ加工				
鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表を標準とする。 (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。				
3. 1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)				
曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所
		SD295 SD345		
		D16 以下	D19 ～D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋
(注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。 2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。				

5 鉄筋のかぶり及び間隔					
5. 1 かぶり厚さ					
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5. 1図)をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。					
5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ					
5. 2 最小かぶり厚さ					
最小かぶり厚さは、5. 1表による。 (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。 (2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。 (3)溶接金網にも適用する。					
5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)					
塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合		
構造部分の種別	床、耐力壁以外の壁	30	40		
	柱、梁、耐力壁	40	50		
	底版	40	50		
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50		
	底版、基礎	60	70		
煙突等高熱を受ける部分		60	70		
1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2：杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。 3：仕上なしの場合を標準とする。					
5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔					
鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合はあきは図面による。 (1)粗骨材の最大寸法の1. 25倍 (2)最小のあき25mm (3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1. 5倍					
5. 2図 鉄筋相互のあき及び間隔					
5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧					
鉄筋径(mm)	鉄筋相互のあき・a			最小鉄筋芯間隔	
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	a+D
D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm

施工年度	令和5年度	工事 番号	5魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事		
処理区分名	排水区分	四日町第1排水区	
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	構造細目共通図 (建築構造物) (1)		
縮尺	図面番号		S-1
図 系	図 例	図 例	図 例

4. 1図 異形鉄筋の末端部	

4. 1表 フックを設ける位置				
異形鉄筋の末端部には、4. 1表によりフックを設ける。				
4. 1表 フックを設ける位置				
部 位	継手方式		備 考	
	重ね継手	圧接継手		
柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部 8. 1図参照	
	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部 4. 1図の●印 8. 2図参照	
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9. 1図参照
梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	11. 1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20. 1図参照
煙突の鉄筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む	
幅止め筋	――	――	3. 1表参照	

4. 1図 異形鉄筋の末端部	

2. 2 一般注意事項

(1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

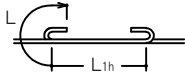
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1)鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3)主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295	24, 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24, 27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注)1. L₁、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d	20d	10d かつ 150mm 以上	30d	25d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		

- (注)1. L₁、L_{1h}：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ

2. L₂、L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

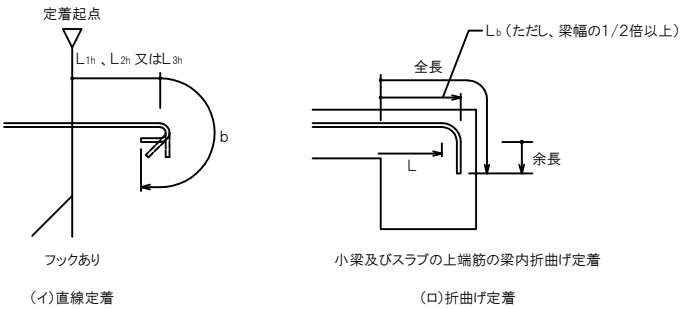
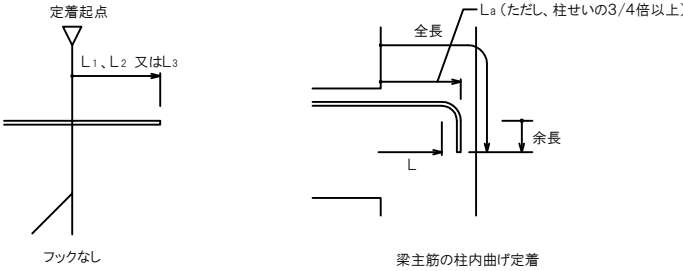
6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注)1. L_a、L_b は、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。

- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
- ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注)1. L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

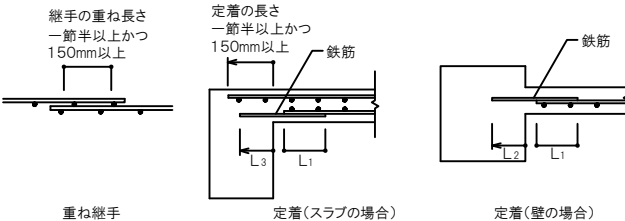
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

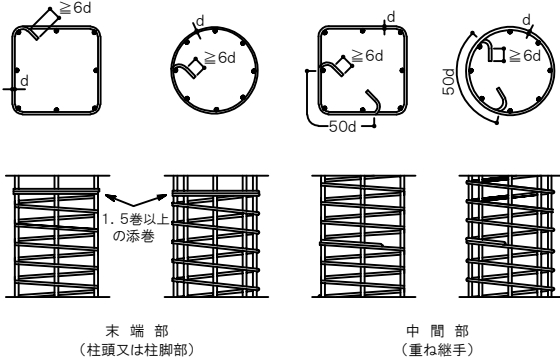
重ね継手	フック有りの場合		
		a=0. 5L _{1h}	a≥0. 5L _{1h}
	フックなしの場合		
		a=0. 5L ₁	a≥0. 5L ₁
圧接継手			
	a≥400mm		

- (2)溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3)スパイラル筋の継手及び定着



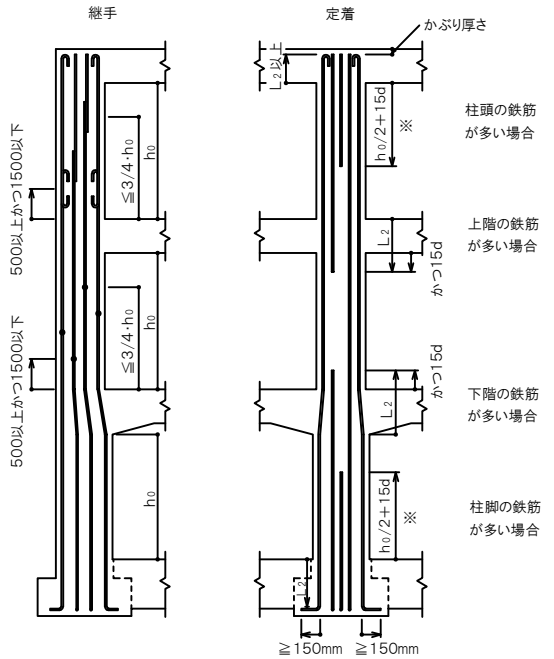
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

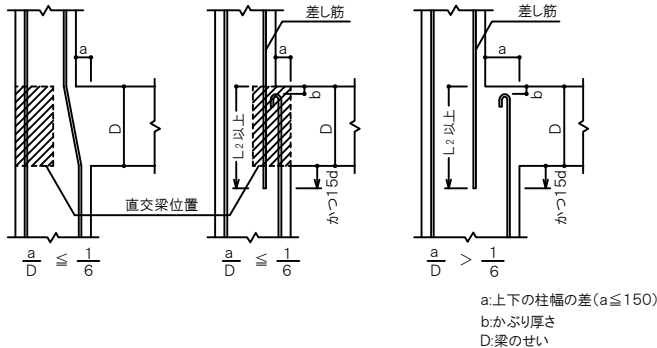
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1)継手長さはL₁とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2)柱頭定着長さL₂が確保出来ない場合は、図面による。
- (3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4h_o (h_oは柱の内法高さ)以下とする。
- (5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

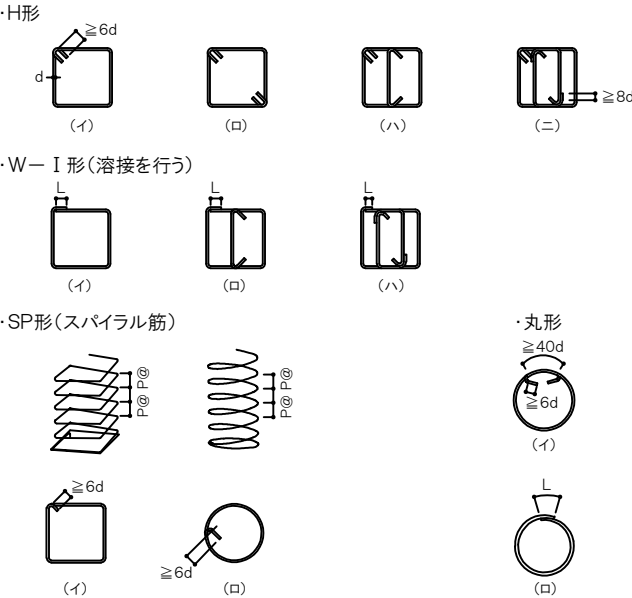


8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

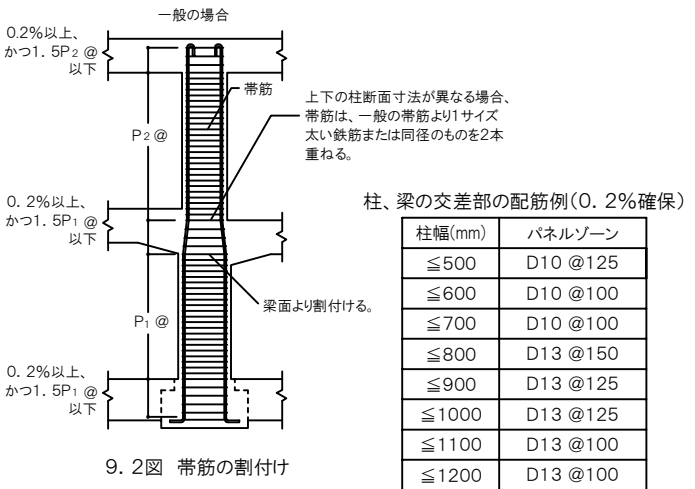
- (1)帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a)H形を標準とする。
- (b)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
- (c)溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
- (2)帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2％以上を確保し、補強筋間隔 ≤ 1. 5Pとする。

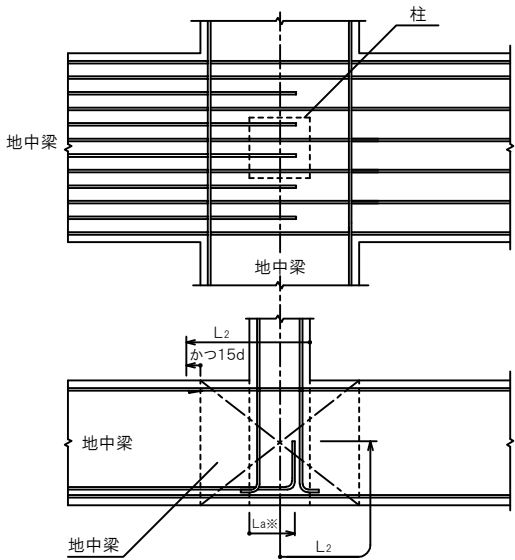


9. 2図 帯筋の割付け

※1. 5P₁、1. 5P₂ のピッチは150mm以下とする。

施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号			
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事					
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区			
施工箇所	魚沼市 四日町 地内					
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（2）					
縮尺				図面番号	S-2	
課長		係長		係長		係長
魚沼市産業経済部建設課						

- (4)柱幅<梁幅の場合
- (a)交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。

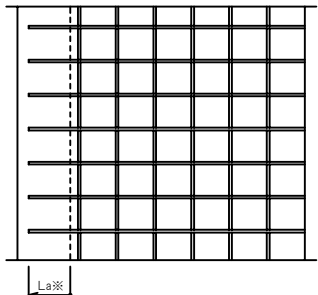


※ L_aの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

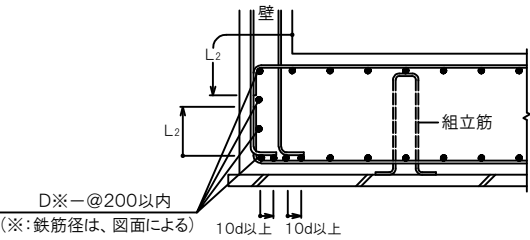
12. 4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

12. 4 梁形を設けない場合の基礎底板(オイルタンク等)

- (1)定着の取り方は、壁の面からとする。
- (2)途中で配筋が変わる場合の定着は、12. 2図のように基礎底板筋を梁筋と読みかえる。

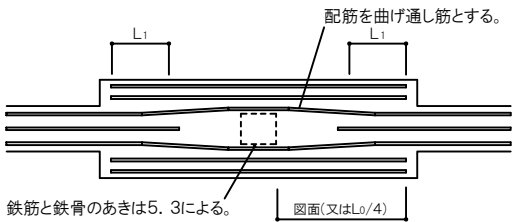


※ L_aの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12. 5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

- (3)鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12. 6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

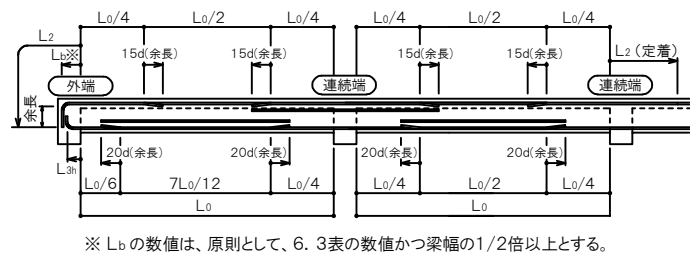
13 小梁及び片持梁の配筋要領

13. 1 一般事項

- (1)図面がない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2)印は、継手及び余長を示す。

13. 2 小 梁

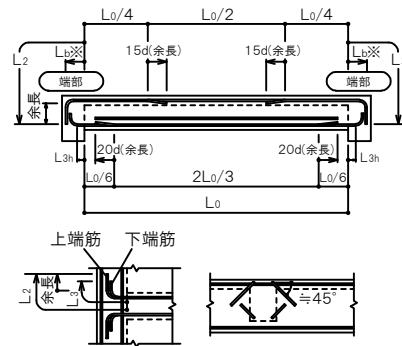
- (1)連続小梁の場合



※ L_bの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (2)単独小梁の場合

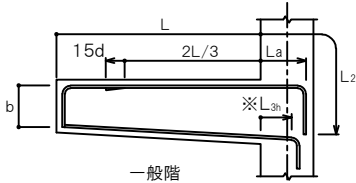


13. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- (注)1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、10. 1及び12. 1に準ずる。
- ※ L_bの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 3 片持梁筋の定着

- (1)先端に小梁のない場合
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

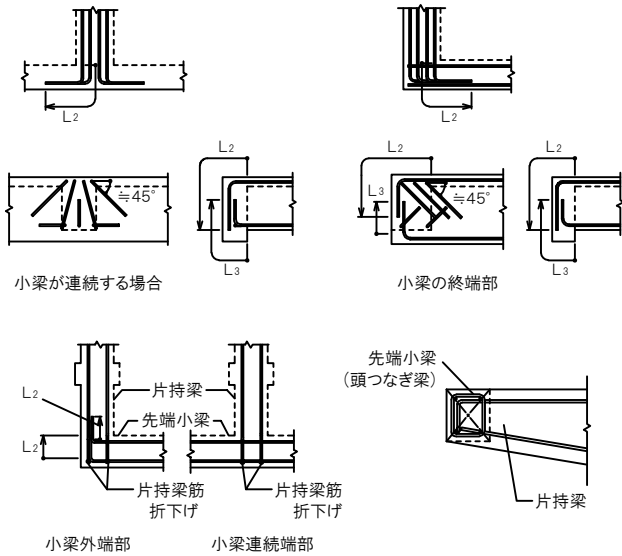


※ L₃をフックなしで定着させる場合は25dとする。

13. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

- (2)先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

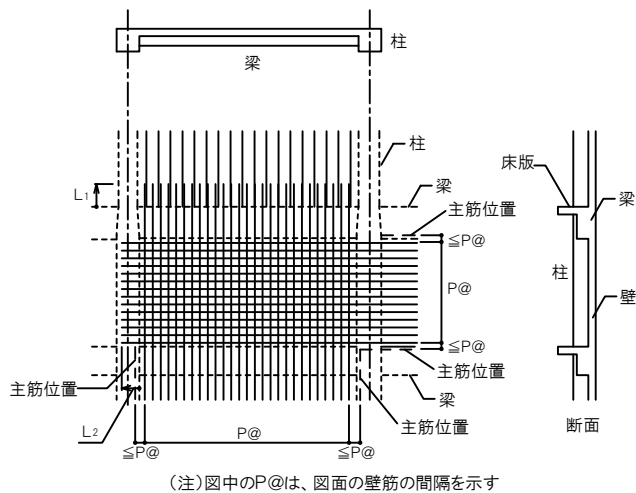


13. 4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14. 1 一般事項

- (1)一般壁配筋の重ね継手の長さはL₁とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
- また、定着の長さは、L₂とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
- (2)幅止め筋は、縦、横ともD10—@1000を標準とする。
- (3)打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
- (4)土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



(注)図中のP@は、図面の壁筋の間隔を示す

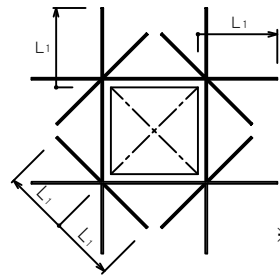
14. 1図 壁の配筋

14. 2 耐震壁の開口

- (1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14. 3 壁開口部の補強

- (1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14. 3図を標準とする。



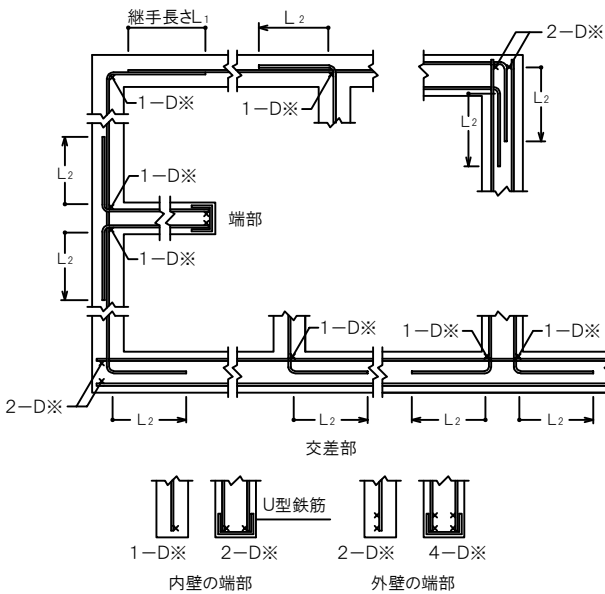
※:鉄筋径及び本数は、図面による

14. 3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2)開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14. 4 壁の交差部及び端部

- 壁の交差部及び端部の交差部は、14. 4図による。
- a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び間隔とする。

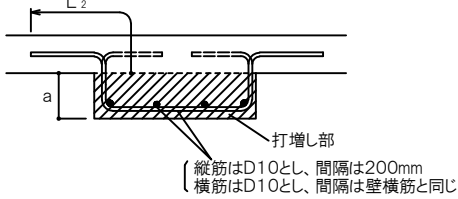


14. 4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

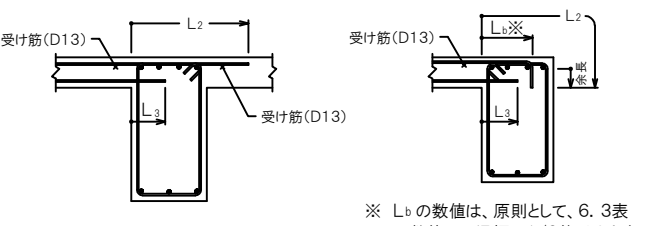
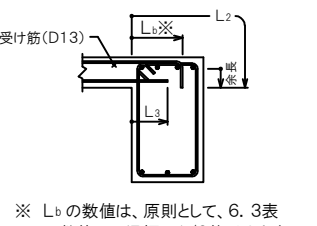
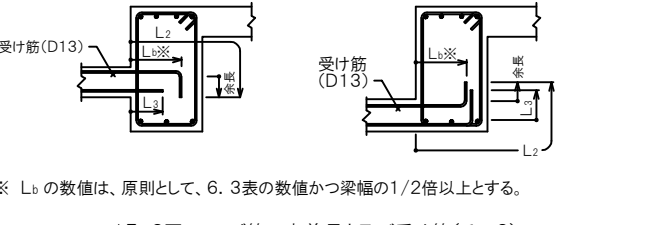
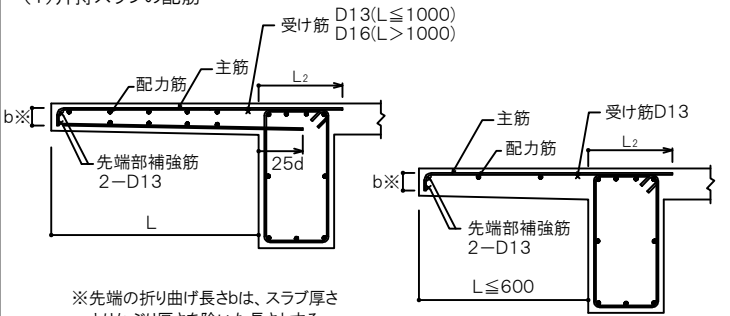
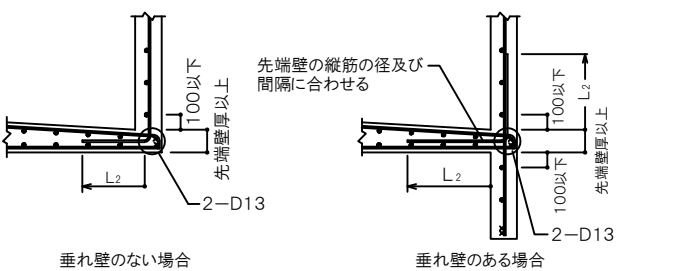
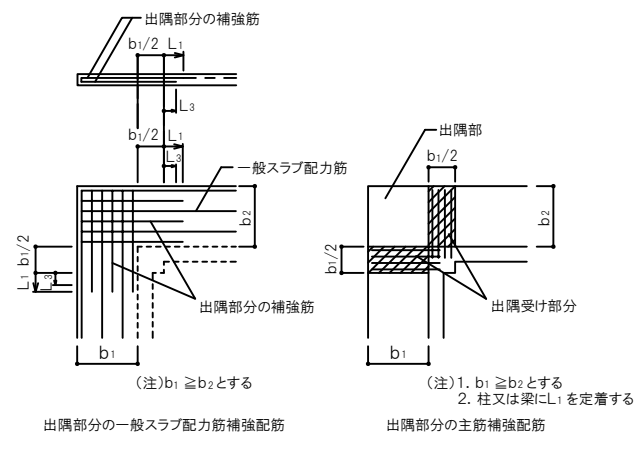
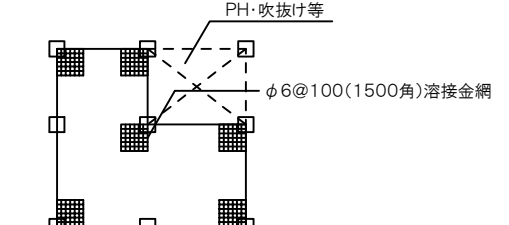
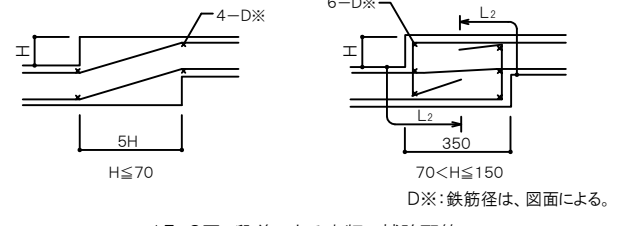
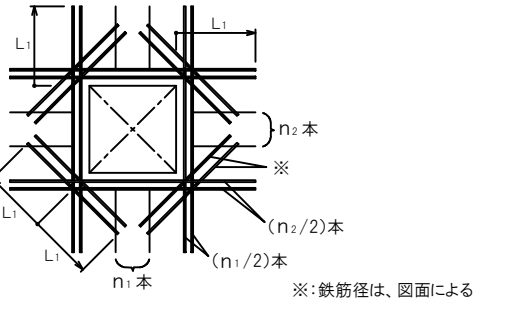
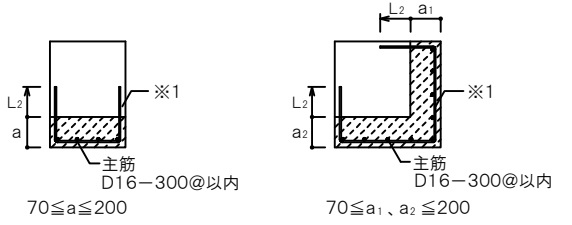
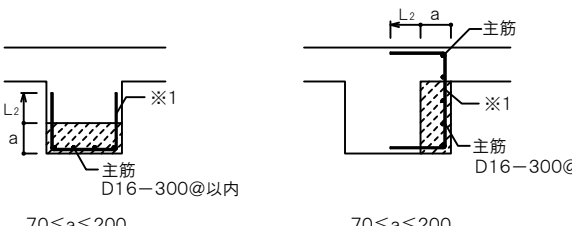
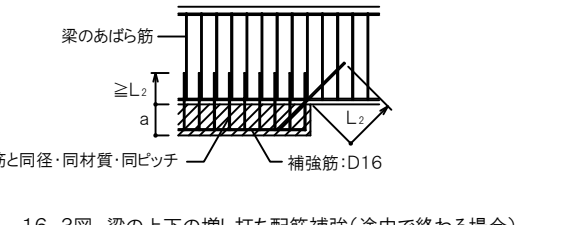
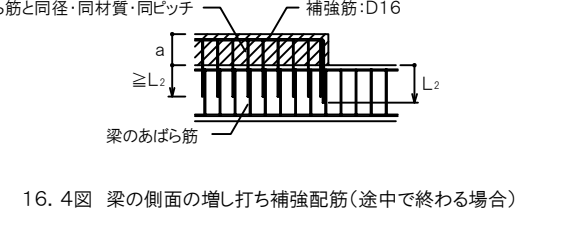
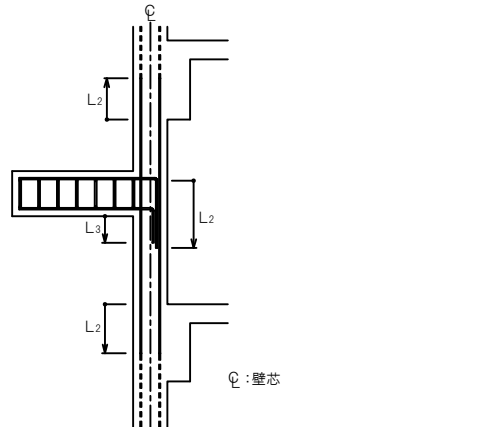
14. 5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14. 5図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを越える場合は、特記による。



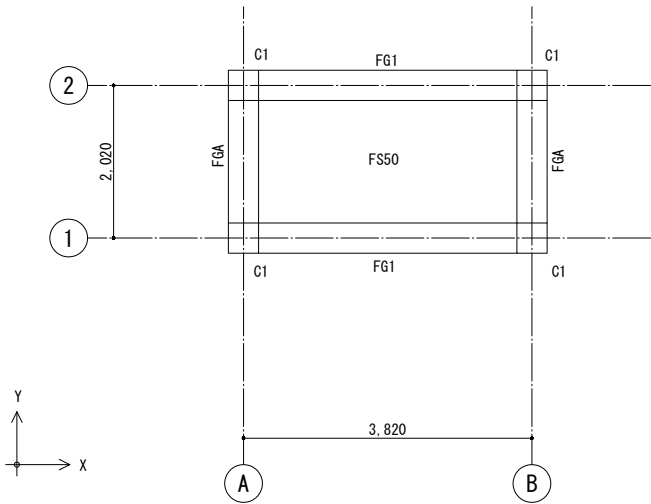
14. 5図 壁の打増し補強配筋

施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号			
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事					
処理区分名			排水区分	四日町第1排水区		
施工箇所	魚沼市 四日町 地内					
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（4）					
縮尺			図面番号		S-4	
課長	係長		係長		設計	監理
氏	名	姓	名	姓	計	理
魚沼市産業経済部建設課						

<div>15 床の配筋要領</div> <div>15.1 一般事項</div> <div>(1)鉄筋の継手長さは、L_1とする。</div> <div>(2)定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。</div> <div>(3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。</div> <div><div></div><div>15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)</div><div></div><div>15.2図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)</div><div></div><div>15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)</div></div> <div>※ L_bの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。</div> <div>15.2 片持スラブ</div> <div>(1)片持スラブの配筋</div> <div></div> <div>15.4図 片持スラブの配筋</div> <div>(2)先端に小梁がなく壁が取り付け場合</div> <div></div> <div>15.5図 先端に壁が付く場合の配筋</div>	<div>15.3 片持ちスラブ出隅部の補強配筋</div> <div>(1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。</div> <div>(2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。</div> <div></div> <div>15.6図 片持スラブ出隅部の補強配筋</div> <div>15.4 地上部最上階の屋根床版</div> <div>(1)出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。</div> <div>(2)陸屋根、勾配屋根共通とする。</div> <div></div> <div>15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋</div> <div>15.5 段差床版の補強</div> <div>同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、$H>150$の場合は、小梁を設ける事を原則とする。</div> <div></div> <div>15.8図 段差のある床版の補強配筋</div> <div>15.6 床版開口部の補強</div> <div>(1)開口の最大径≤ 700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図) 開口の最大径> 700の場合は図面による。</div> <div></div> <div>15.9図 床版開口部の補強配筋</div> <div>(2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。</div>	<div>16 柱及び梁の増し打ち要領</div> <div>16.1 柱</div> <div>(1)増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。</div> <div>ただし、$a<70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm}<a$の場合は、図面による。</div> <div></div> <div>16.1図 柱の増し打ち補強配筋</div> <div>(2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。</div> <div>(3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。</div> <div>(4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。</div> <div>16.2 梁</div> <div>(1)増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。</div> <div>$a<70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm}<a$の場合は、図面による。</div> <div></div> <div>16.2図 梁の増し打ち補強配筋</div> <div>(2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。</div> <div>(3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。</div> <div>(4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。</div> <div>(5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合</div> <div></div> <div>16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合)</div> <div>(6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合</div> <div></div> <div>16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)</div>	<div>18 階段の配筋要領</div> <div>18.1 階段の配筋要領</div> <div>(1)壁配筋は、図面による。</div> <div>(2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。</div> <div></div> <div>18.1図 片持スラブ形階段配筋の定着</div>
---	--	--	---

施工年度		令和5年度		工事番号		5魚建第1号	
工事名		四日町排水ポンプ場機械設備工事					
処理区分名			排水区分		四日町第1排水区		
施工箇所		魚沼市 四日町 地内					
図面名称		構造細目共通図（建築構造物）（5）					
縮尺					図面番号		S-5
課長	係長		課長	係長	課長	係長	課長
魚沼市産業経済部建設課							

<div>19 勾配屋根の取っ組み</div>	<div>19. 2 梁と床版の取っ組み</div>	<div>20. 2 基礎接合部の補強配筋</div>	<div>21. 2 基礎接合部の補強</div>																																
<div>19. 1 斜め柱・斜め梁の取っ組み</div> <div>(1)※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。</div> <div>(2)1. 5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。</div> <div>(3)柱の取っ組み部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。</div> <div><div>a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一</div><div>b) 柱幅と斜材幅が異なる</div><div>c) 柱脚で斜材となる</div><div>d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。</div><div>e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。</div><div>f) 斜め大梁に小梁が接する場合柱筋はa), b)に倣う。</div><div>g) 大梁に斜め小梁が接する場合</div></div> <div>19. 1図 斜め柱・斜め梁の取っ組み配筋</div>	<div>19. 2 梁と床版の取っ組み</div> <div>増し打ち補強要領は、16. 2Iによる。</div> <div><div>Type A</div><div>Type B</div></div> <div>19. 2図 梁と床版の取っ組み配筋</div> <div>19. 3 円柱の取っ組み</div> <div>円柱と梁の取っ組み</div> <div><div>1) 柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合</div><div>2) 柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合</div><div>3) 柱脚部の円柱と基礎との取っ組み</div></div> <div>19. 3図 円柱の取っ組み配筋</div> <div>20 基礎及び基礎梁の配筋</div> <div>20. 1 直接基礎の配筋</div> <div>(1)独立基礎</div> <div><div>基礎筋</div><div>基礎筋</div><div>はかま筋</div><div>はかま筋</div><div>基礎筋</div><div>はかま筋</div></div> <div>20. 1図 独立基礎の配筋</div> <div>(2)連続基礎</div> <div><div>基礎梁主筋</div><div>基礎梁あばら筋</div><div>腹筋とかねてよい</div><div>はかま筋</div><div>連続基礎配力筋</div><div>連続基礎主筋</div></div> <div>20. 2図 連続基礎の配筋</div>	<div>21 杭基礎の補強</div> <div>21. 1 杭基礎の配筋</div> <div>(1)中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。</div> <div>(2)既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。</div> <div><div>D13—300@縦横</div><div>基礎筋</div><div>底板補強筋</div><div>D13—@200縦横</div><div>杭径の1. 0倍</div><div>中詰めコンクリート</div><div>15d</div><div>杭径</div><div>杭径</div><div>平面</div></div> <div>21. 1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法</div>	<div>基礎接合部の補強は、20. 2Iによる。</div> <table><tr><td>施工年度</td><td>令和5年度</td><td>工事番号</td><td>5魚建第1号</td></tr><tr><td>工事名</td><td colspan="3">四日町排水ポンプ場機械設備工事</td></tr><tr><td>処理区分名</td><td>排水区分</td><td colspan="2">四日町第1排水区</td></tr><tr><td>施工箇所</td><td colspan="3">魚沼市 四日町 地内</td></tr><tr><td>図面名称</td><td colspan="3">構造細目共通図 (建築構造物) (6)</td></tr><tr><td>縮尺</td><td colspan="2">図面番号</td><td>S-6</td></tr><tr><td>課長</td><td>係長</td><td>調査員</td><td>設計者</td></tr><tr><td colspan="4">魚沼市産業経済部建設課</td></tr></table>	施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号	工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事			処理区分名	排水区分	四日町第1排水区		施工箇所	魚沼市 四日町 地内			図面名称	構造細目共通図 (建築構造物) (6)			縮尺	図面番号		S-6	課長	係長	調査員	設計者	魚沼市産業経済部建設課			
施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号																																
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事																																		
処理区分名	排水区分	四日町第1排水区																																	
施工箇所	魚沼市 四日町 地内																																		
図面名称	構造細目共通図 (建築構造物) (6)																																		
縮尺	図面番号		S-6																																
課長	係長	調査員	設計者																																
魚沼市産業経済部建設課																																			

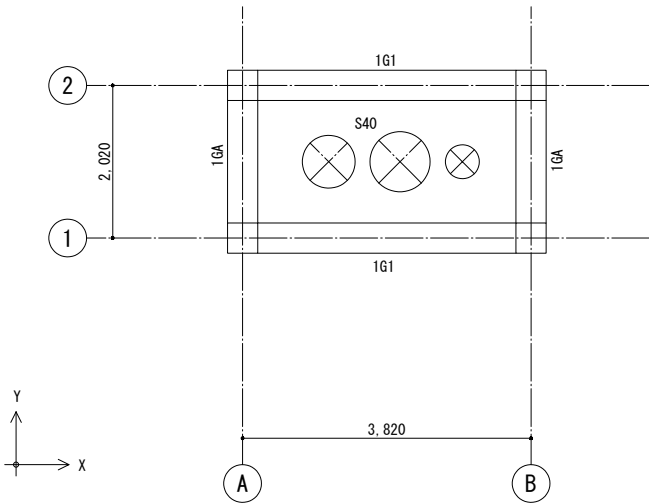


底版 伏図

1/50

共通事項 特記なき限り下表による

- ・ 梁・スラブ天端は、底板スラブGL±0とする。
(底板スラブGL=+87.710)

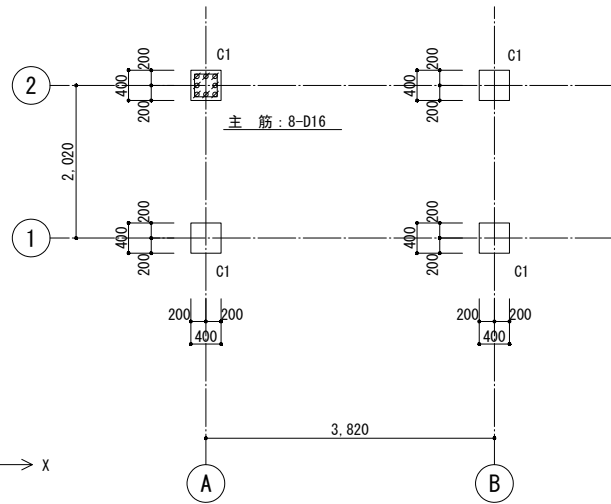


頂版 伏図

1/50

共通事項 特記なき限り下表による

- ・ 梁・スラブ天端は、計画GL±0とする。
(計画GL=+89.900)



柱芯線図

1/50

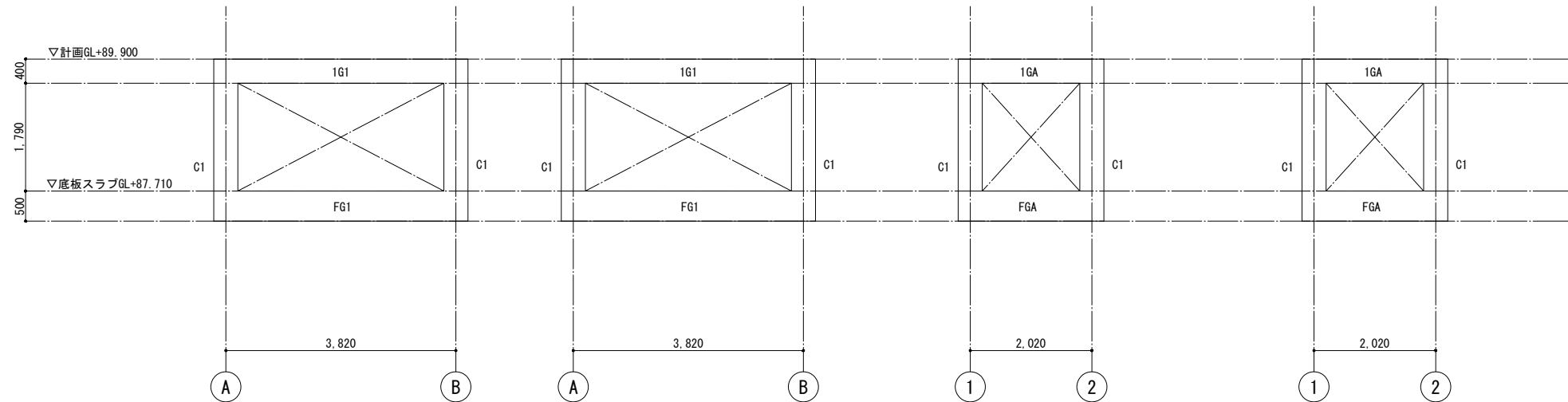
共通事項 特記なき限り下表による。

- ・ フープ □-D10@100
- ・ 仕口部フープ □-D10@100
- ・ 基礎部フープ □-D10@100

大梁リスト

1/50

符 号	1G1	1GA
位 置	全断面	全断面
断 面		
B x D	400x400	400x400
上 筋	4-D16	4-D16
下 筋	6-D16	4-D16
スタラップ	2-D13 @200	2-D13 @200
腹 筋	-	-
符 号	FG1	FGA
位 置	全断面	全断面
断 面		
B x D	400x500	400x500
上 筋	5-D16	5-D16
下 筋	5-D16	5-D16
スタラップ	3-D13 @200	3-D13 @200
腹 筋	-	-



1通 軸組図

1/50

2通 軸組図

1/50

A通 軸組図

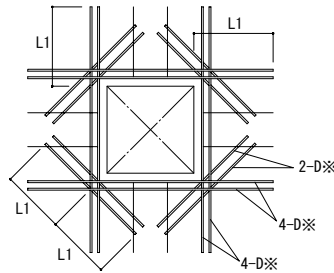
1/50

B通 軸組図

1/50

スラブ開口部の補強配筋

- (1) 開口の最大径>700の場合は下図による。
(*一辺でも700を超える場合に適用する)



注) ※ は、リストの鉄筋径とする。

使 用 材 料	
コンクリート	Fc=24 (N/mm ²)
鉄 筋	SD295

スラブリスト

共通事項 1. 特記なき限り 床開口の最大径≦700の場合は構造細目共通図による。但し、補強筋径は下表による。

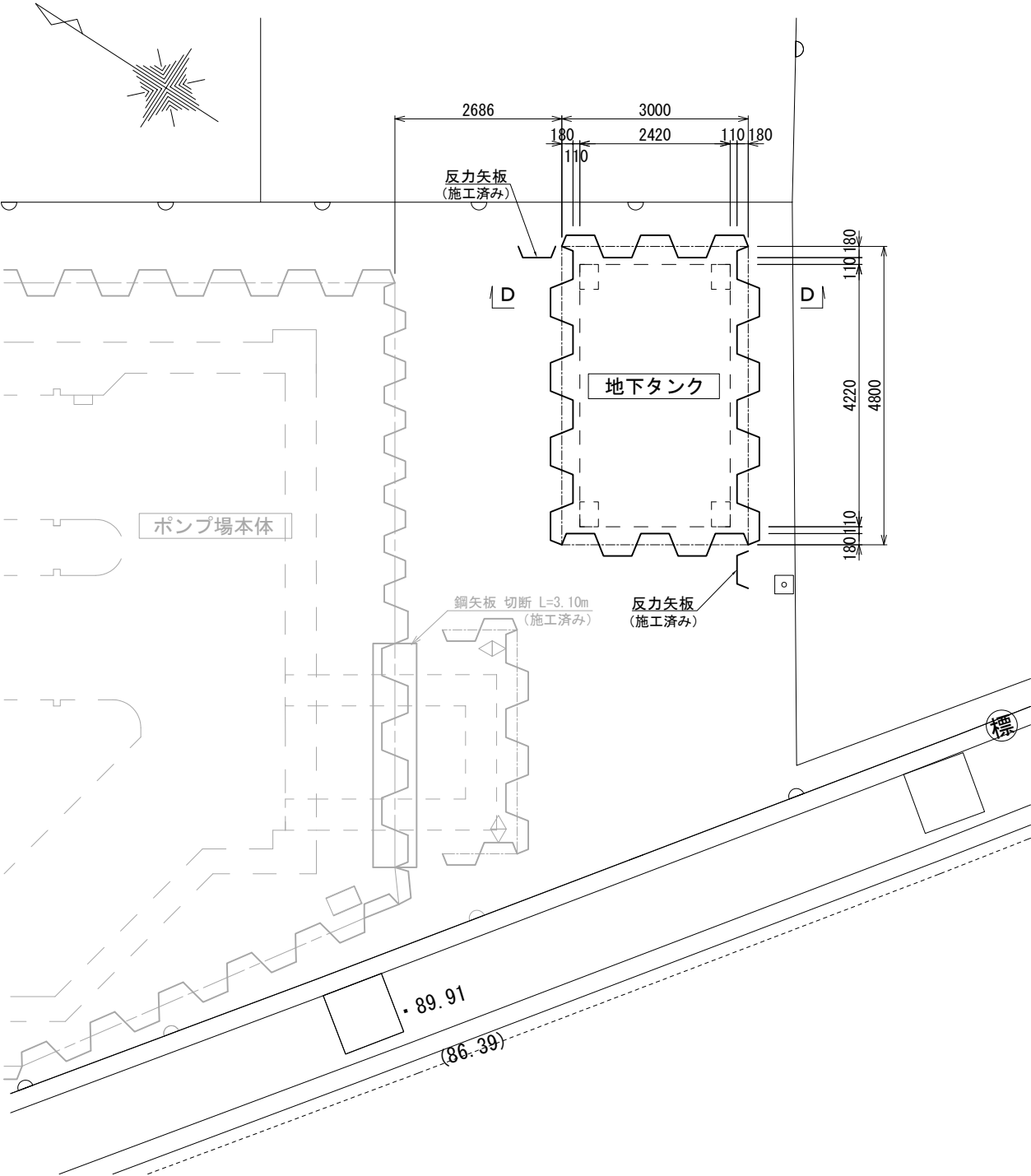
符 号	版 厚	位 置	短辺方向		長辺方向		開口補強筋		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	縦横筋	斜 筋	
S40	400	上 下	D16@200 ダブル		D16@200 ダブル		D16	D16	
FS50	500	上 下	D16@150 ダブル		D16@150 ダブル		D16	D16	

施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	地下タンク 構造図		
縮尺	1/50	図面番号	S-7
図 表	図 表	図 表	図 表
魚沼市産業経済部建設課			

仮設土留め工参考図 S=1/50

(地下タンク)

平面図



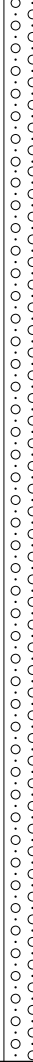
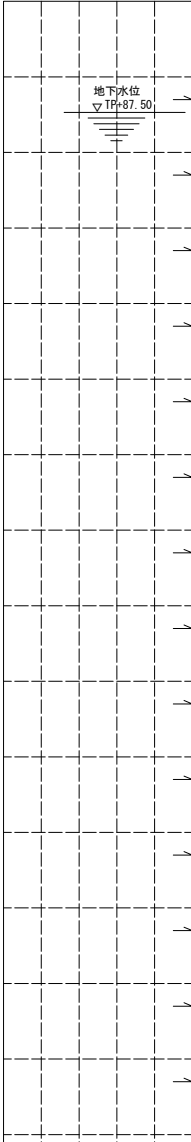



施工済み鋼矢板一覧表

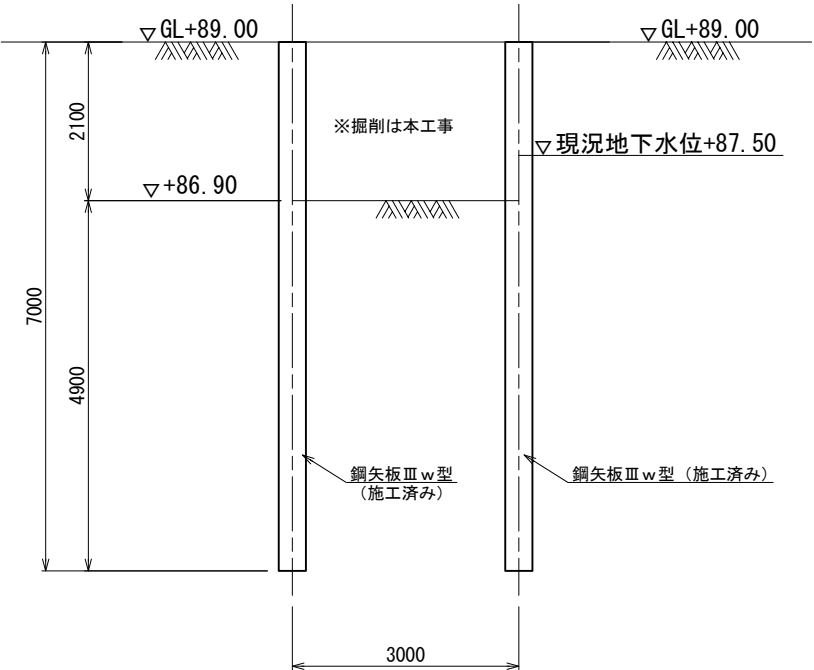
名 称	サ イ ズ	全長 (m)	天端レベル (m)	本 数 (枚)	備 考
オイルタンク	Ⅲ w 型	7.0	+89.00	26	施工済み
	Ⅲ w 反力矢板	4.0	+89.00	2	施工済み
合 計				28	

ボーリング No1

H=88.97m

標高 (m)	層厚 (m)	柱 状 図	地 質 名	N 値 0 10 20 30 40 50					
+88.27	0.70		盛土						
+87.97	0.30		礫混砂礫						
			玉石混砂礫	66					
				167					
				188					
				54					
				56					
				250					
				214					
				115					
				214					
				375					
				75					
				167					
				107					
				167					
+73.88	14.09								

D-D断面図



施工年度	令和5年度	工事番号	5魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	仮設土留め工参考図		
縮尺	1/50	図面番号	S-8
製 図 者	保 土 課	監 査 者	計 画 課
魚沼市産業経済部建設課			